



TITLE:

東亞天文協會

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會. 天界 1933, 13(145): 204-206

ISSUE DATE:

1933-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162342>

RIGHT:

東 亞 天 文 協 會

會 報

○2月例会——去る2月19日午後2時半より花山天文臺で、山本會長の「近年の日食」談あり、當日積雪の花山道を登つて、遠近より、熱心な會員達が集合され、昨年8月31日の北米での日食、明年2月14日の南洋の日食及び1936年6月19日北海道北岸に於ける日食等の説明や種々の興味ある豫測談など、幻燈、寫眞等を眺めながら聴講し、午後4時頃解散した。

○3月例会は都合により延期されました。

○故中村要氏遺稿が少数残つてゐます、御希望の方は送料を添へ御申込み下さい。約4,5名に限り御頒ち致します。

2月號掲載、グレゴリ式望遠鏡原稿、3月號掲載、小遊星の話原稿。

○觀測部太陽課の觀測報告は、花山天文臺太陽課宛觀測報告を願ます、

北 米 通 信

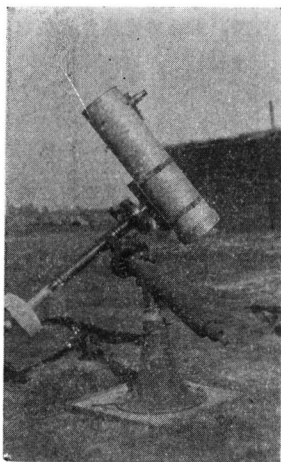
前畧 先頃、ロスアンゼルス市のタイムス新聞日曜附録に、アリゾナ隕石坑とインデアン種族の滅亡とを結び付けた “When a comet struck the Earth” を讀んで大變面白き見解と存じ、同封のやうなもの書いて見ました。若し幸に價値あると御考にならば、天界に御のせ下さい。（中略）又同封の寫眞は此頃やうやう出来上りました八時及九時の反射望遠鏡であります。鏡は二つ共私が磨きましたが、figuring は Riverside, Cal., の Dr. H. Page Bailey 氏に御願して仕上げました。八時の Mounting はフォード自動車の古物で作つた赤道儀であります。Amateur Telescope Making からとつた型で、割合に容易く仕上げる事が出来ました。九時の方は Dr. H. Page Bailey が作つた同氏獨特のフォーク形のマウンティングで筒が極軸より三度計り下まで動くやうに出来て居る爲、北極星附近の空も充分見る事が出来ます、全部アルミニウム製で震動がありません。鏡のセル (Cell) だけを鑄鐵で作し、筒のバランスを取り易くしました。素人作としては頗る運轉が滑かに行きます。寫眞器も取り付けて試みましたが立派なものが撮れました。此の望遠鏡を持つて見ると清澄な砂漠の空も案外 Seeing の悪い夜が多いのに驚きました。まし

て冬季は太平洋沿岸は雨期に入る爲、風、曇或は寒さなどに妨げられて星を見る chance が少ないのに閉口して居ります。

昨年は十數個の彗星が出現しましたが、盡く白人によつてのみ發見せられましたが、本年は是非共、二三個、日本人の名を附したものと同好會員諸君に御願ひ致します。

1933年一月廿三日

在 米 長 田 政 二



南 米 よ り

昭和八年一月十四日

サンパウロ州ノロエステ線ルツサンビラ驛第一アリアンサ

東亞天文協會ブラジル支部 神 屋 信 一

京都帝國大學内 東亞天文協會御中

謹啓、中村要先生御逝去の趣き十一月號天界にて拜見いたし、一同驚き入りました次第で御座います。入會勿々のことでありまして、先生からお教へを受けます機会もありませんでしたことは残念に堪えまん。諸先生方の御落膽も一入の御事と御推察申上げます。私等研究所員一同は、近日中に附近の農園に労働に参り、その得ました賃金を、中村先生追悼の私達の微意としてお送りいたすことにいたします。どうか然様御承知下さいませ。(中略)奥地であります爲め精確な時間といふことに非常に困難いたして居ります。現在では簡単な日時計をつくり、毎日太陽の南中時を計り、ストップウォッチで時間を計ることにして居りますが、手輕な日時計の完成品は、どのような種類のものがあり、又、価格はどれ位のものであるかを御知らせ下さいませんか。

ブラジルに於ては日本の參謀本部の地圖の様な精密なものは絶対にありませんので、此處の經度を比較的正確に知るに困難であります。簡易な方法を御教示下さいませ。

編 輯 室 よ り

本號は、偶然ながら、近頃珍らしい内容となりました。「新知識」を除いては、皆何れも頗る興味ゆたかな通俗記事を得ましたので、初歩の讀者に歓迎されることと思ひます。一種の「彗星と隕石特輯號」です。なじみ深い Glanville 老が死なれました。全く、悲しい知らせです。次號にでも同氏の傳記を載せませう。未發表の中村氏の遺稿はまだ澤山あります。號を追ふて出します。死して後も、中村氏は吾々を教へ導きます。南米支部の人々の熱心と眞摯とには感心させられます。

山本會長の突如とした外遊には驚かされますが、しかし、目下、編輯部は多士濟々ですから、會長不在申も心配はありません。——むしろ、會長歸朝後のおみやげをウンと期待します。

A. 會費の値下げ (せめて、年2圓ぐらゐに)

B. 本誌の増頁 (少なくとも、每號100ページに)

この二つの切なる希望を、多くの會員から聞き、又、本部でも熱心に之れを待望してゐます。學界は益々多忙であり、各地各方面からの珍らしい原稿は編輯室に山積してゐます。しかし、資金が不足のため、上記の理想は今まで實現されず、或る原稿の如きは一ヶ年半も握りつぶされてゐます。此の難關を突破する唯一の方法は **新入會員を増すこと** です。ひとへに現在會員の御勧誘と御奮勵を願ひます。總員2,000人となるまで!